

## 全日本大学選手権 フェンシング部が大健闘 3種目に準優勝 男子フルーレ・エペ 女子フルーレ



▲男子フルーレ法大戦＝福田(左)



▲女子フルーレ 荻祥子(左)〈撮影・幸脇〉

全日本学生フェンシング王座決定戦が6月28、29日に京都府大山崎町体育館で行われ、専大は男子フルーレ・エペ、女子フルーレの3種目で準優勝と大健闘を見せた。

男子フルーレは各選手が実力を発揮できない嫌な流れの中、決勝で関東リーグでの屈辱を晴らすべく宿敵・法大と対戦。福田佑輔主将(経済4・東亜学園高)が、スキの無い動きで連続13ポイントを奪い見事な逆転勝利を見せたものの、紙一重のところでも惜しくも敗れた。

男子エペ・決勝でも再び法大と対戦。キレのある剣さばきで、接戦に持ち込むが惜敗。どちらも「後一步で優勝」の結果に福田主将は「今大会は各個人が100パーセントの実力を出せなかったのが敗因。個人の実力を上げるのが課題」と悔しさをにじませた。

女子フルーレは、団結力を生かした戦いぶりで勝ち抜いたが、優勝をかけた日体大戦でミスが重なり、1本差に泣いた。今大会での悔しさをバネに男女とも実力アップを図り、次に生かしてほしい。

この大会は、男子が関東、関西、北海道、東北、九州の各リーグ上位校によるトーナメント方式、女子は関東、関西のリーグ上位校による総当り戦方式で争われ、学生王座の地位をめぐる戦いを繰り広げる。(佐山美貴・文3)

[7月15日/ニュース専修16面]

## 伝統校の意地 上位を独占 関東学生卓球選手権（男子）



▲ガッツポーズを見せる山城(左)と原

関東学生卓球選手権が7月2日から4日まで、駒沢体育館で行われた。専大は男子ダブルスで山城譲二(商3・柳川高)・原雅彦(商1・青森山田高)組が優勝。伊藤隆人(法4・大阪桐蔭高)・駒場靖史(法4・愛知工大名電高)組が準優勝、大谷準也(経済4・上宮高)・石原亮祐(商4・湘南工科大附属高)組が3位と上位を独占し、伝統校の強さを見せつけた。

男子ダブルスは準決勝に3組が進出し、準決勝、決勝でも実力を遺憾なく発揮する。山城・原組対伊藤・駒場組となった決勝戦。お互いに一步も引かない熱戦だったが、山城・原組に軍配が上がった。大谷・石原組は3位決定戦で早大を下した。また、吉田訓章(商4・社若高)・阿部淳一(経済3・遊学館高)組もベスト8入りを果たした。

男子シングルスでも、気迫のプレーを見せた大谷がベスト8、高宮啓(商2・湘南工科大附属高)がベスト16となった。

女子はシングルスで河野千春(文2・松本松南高)・犬伏愛(文3・白鵬大女高)が共にベスト32を果たした。(稲田礼子・法2)

[7月15日/ニュース専修16面]

## 惜しくも連覇逃す 関東大学バスケットボール新人戦



▲豪快なシュートを決めた大宮。左は友利=撮影・山室

男子の関東大学バスケットボール新人戦が、6月15日から22日まで代々木第2体育館他で行われ、昨年優勝の専大は3位となり、連覇はならなかった。

順調に勝ち進み、準決勝・東海大戦。前半専大はミスが目立ちなかなか得点に結びつかない。さらに相手の高さにも苦しめられ、リバウンド争いも激しくなる。しかし第3Qに入ると、リバウンドを完全に支配し、大宮宏正(経済2・作新学院高)を中心に得点を重ね、40-42と一気に詰め寄る。第4Qで逆転を狙うが、思うようにシュートが決まらず、49-61で敗れた。法大との3位決定戦は80-71で勝利。

今大会は、大宮が優秀選手賞と得点王を獲得。さらに伊藤孝志(商2・福岡大大濠高)もリバウンド王に輝き、専大バスケット部のこれからの飛躍を予感させる選手たちの活躍は光った。この悔しさをバネに、さらなる成長を見せてほしい。(井上寸子・文2)

[7月15日/ニュース専修16面]

### 3種目総合3位 MR.グリーン号の故障響く 関東学生馬術



▲ラストスパートをかける浅見恵一  
主将(撮影・山室)

関東学生馬術大会が6月26日から29日までJRA馬事公苑で行われ、専大は障害飛躍で5位、総合馬術(調教・耐久・余力)で2位となり、3種目総合3位に終わった(馬場馬術は順位つかず)。

初日、障害馬術では、全員がイージーミスを連発し、まさかの5位に。雲行きの怪しいスタートとなった。

2日目の馬場馬術では、ミスターグリーン号・森裕悟(商2・関東第一高)が競技中に破行。審判に失権と判断され、団体の順位を得ることが出来なかった。3、4日目の総合馬術で挽回するが、3種目総合で昨年よりも一つ順位を落とす結果に終わった。

試合後、富沢健悟監督は「秋に向けてやるべき課題が見えた」と確信に満ちた顔で語り、「今回をきっかけに心機一転、昨年優勝した全日本に臨んでほしい」と選手達にエールを送った。

1・2年次主体のため“若さ”が出てしまった今大会。この苦い“経験”を次に活かしてほしい。(山室綱寛・文3)

[7月15日/ニュース専修16面]